

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5145594号
(P5145594)

(45) 発行日 平成25年2月20日 (2013. 2. 20)

(24) 登録日 平成24年12月7日 (2012. 12. 7)

(51) Int. Cl.	F 1	
A 4 4 B 11/24 (2006. 01)	A 4 4 B 11/24	
A 4 1 F 9/02 (2006. 01)	A 4 1 F 9/02	A
A 4 4 C 5/18 (2006. 01)	A 4 4 C 5/18	A
A 4 4 C 25/00 (2006. 01)	A 4 4 C 25/00	B

請求項の数 7 (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2007-557609 (P2007-557609)	(73) 特許権者	507288969
(86) (22) 出願日	平成18年2月27日 (2006. 2. 27)		エックスレーイ マネージメント アンド
(65) 公表番号	特表2008-531167 (P2008-531167A)		ライセンシング リミテッド
(43) 公表日	平成20年8月14日 (2008. 8. 14)		イギリス、ロンドン ダヴリュー1ユー
(86) 国際出願番号	PCT/IB2006/000394		2 エイチエー、ウィグモア ストリート
(87) 国際公開番号	W02006/090255		3 8
(87) 国際公開日	平成18年8月31日 (2006. 8. 31)	(74) 代理人	100071054
審査請求日	平成21年2月16日 (2009. 2. 16)		弁理士 木村 高久
(31) 優先権主張番号	05101510.5	(72) 発明者	ローランド、イッテン
(32) 優先日	平成17年2月28日 (2005. 2. 28)		スイス、セーアッシュー1052 ル モ
(33) 優先権主張国	欧州特許庁 (EP)		ン、ルート ド ローザンヌ 6 8

審査官 中尾 奈穂子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 バックル機構

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

解放可能および調節可能に取付部材 (3) を舌部部材 (5) に接続するバックル機構 (1) であって、前記取付部材 (3) に接続されるかまたは接続されるように適合された固定バックル部材 (2) と、前記舌部部材 (5) に接続されるように適合され、かつ前記舌部部材 (5) と前記取付部材 (3) との間の距離を引張方向に沿って変更するために、第1の安定位置と第2の安定位置との間で前記固定バックル部材 (2) 内に摺動可能に装着された可動要素 (4) と、第1の安定位置と第2の安定位置との間で前記可動要素 (4) を移動するための手動式レバーシステム (6、6') とを含み、

前記手動式レバーシステム (6、6') が、前記可動要素 (4) をその第1の安定位置と第2の安定位置との間で移動するために180度傾斜可能な第1のレバー部材 (6) を含み、

該第1のレバー部材 (6) は、第1の軸 (7) の周りで旋回可能に前記可動要素 (4) に接続され、前記第1のレバー部材 (6) はさらに、第2の軸 (8) の周りで旋回可能に第2のレバー部材 (6') に接続され、

前記第2のレバー部材 (6') は、第3の軸 (9) の周りで旋回可能に前記固定バックル部材 (2) に接続され、前記可動要素 (4) は、前記第1のレバー部材 (6) を180度傾斜させることにより前記第1の安定位置と前記第2の安定位置との間で摺動可能であり、前記傾斜は、前記第1のレバー部材 (6) を前記第1および第2の軸 (7、8) の周りで旋回させ、前記第2のレバー部材 (6') が前記第3の軸 (9) の周りで旋回するこ

10

20

とでもたらされることを特徴とするバックル機構(1)。

【請求項2】

前記固定バックル部材(2)は、前記第1の安定位置および前記第2の安定位置との間の移動中、前記可動要素(4)を支持および案内するレール(12、13、14)を含むことを特徴とする請求項1に記載のバックル機構(1)。

【請求項3】

前記可動要素(4)が、前記舌部部材(5)の孔(20)に係合するために前記引張方向に垂直に延在するピン(15)を含むことを特徴とする請求項1又は請求項2に記載のバックル機構(1)。

【請求項4】

必要な場合には、前記ピン(15)を前記舌部部材(5)の前記孔から解除することにより前記舌部部材(5)を前記可動要素(4)から解放するために、前記固定バックル部材(2)の一端に解放要素(16)が旋回可能に装着されることを特徴とする請求項1～3のいずれか一項に記載のバックル機構(1)。

【請求項5】

前記解放要素(16)が、前記舌部部材(5)を前記ピン(15)の長手方向軸に概して平行な方向へ押し込むための少なくとも1つの押込み要素(17)を含むことを特徴とする請求項4に記載のバックル機構(1)。

【請求項6】

請求項1～5のいずれか一項に記載のバックル機構を含むベルト。

【請求項7】

請求項1～5のいずれか一項に記載のバックル機構を含むブレスレットまたはネックレス。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、一般的にウエストベルト用のバックルに関し、前記バックルは、ネックレスおよびブレスレットなどの宝石類に適合できる。

【背景技術】

【0002】

従来技術において、第1のバックル部材と第2のバックル部材とを含み、その両方ともがレバーに取り付けられているバックル機構が開示されている。前記第2のバックル部材を傾け、前記レバーによって2つの安定位置間で回転させて、ベルトの両端の間の距離を調整することができる。第2のバックル部材は、ベルト舌部の孔に係合するピンを含む。このような機構の不利点は、第2のバックル部材が第1のバックル部材に回転可能に接続されることから、前記第2のバックルが回転する間中、ベルト舌部の孔と係合した状態を保つためにピンが回転できるように、ピンを装着する必要があるということに起因する。それゆえピンの長手方向軸が、引張軸とは、実質的に90度とは異なる角度を形成し得る。それゆえ舌部は正しく係合されず、孔に損傷をもたらすことがある。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

本発明の目的は、ピンを備える要素を含むバックル機構を提案することであり、前記要素は、引張軸に沿って直線的に移動することができるので、ピンの長手方向軸と引張軸との間の角度を確実に90度にする。

【課題を解決するための手段】

【0004】

この目的は、請求項1に記載のバックル機構によって達成される。このようなバックル機構は、取付部材を舌部部材に解放可能および調節可能に接続するために、取付部材に接続されるかまたは接続されるように適合された固定バックル部材を含む。舌部部材に接続

10

20

30

40

50

されるように適合された可動要素は、前記舌部部材と前記取付部材との間の距離を引張方向に沿って変更するために、第1の安定位置と第2の安定位置との間で固定バックル部材内に摺動可能に装着される。手動式レバーシステムは、可動要素をその第1の安定位置と第2の安定位置との間で移動するために作動可能である。

【0005】

本発明は、以下、添付の図面を参照にして好ましい実施形態の詳細な説明から、より理解されるであろう。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

本発明の好ましい実施形態によれば、バックル機構(1)は、手動式レバーシステム(6、6')を備える固定バックル部材(2)と、前記固定バックル部材(2)に摺動可能に接続された可動要素(4)とで構成されている。固定バックル部材(2)は、ベルトの取付部材(3)に接続されるように適合されている一方で、可動要素は、ベルトの舌部(5)に実現可能に取り付けられるように適合されている。

10

【0007】

可動要素(4)は、引張方向に垂直に延在しかつベルト舌部(5)の孔(20)に係合するように適合されたピン(15)を有する。舌部(5)は、複数の孔(20)を含むので、舌部(5)と可動要素を複数の位置において解放可能に接続できる。

【0008】

可動要素(4)は、2つのローラ(21)を3組備え、ローラ(21)の1組は前記要素(4)の両側に装着され、1組はその中心に装着される。これらのローラによって、可動要素(4)を、固定バックル部材(2)の部品である3つのレール(12、13、14)に沿って摺動できる。これらのレール(12、13、14)をバックル機構の長手方向に沿って一定の距離をおいて互いに平行に組立てる。外側レール(12、14)は両方とも、要素(4)の両側に装着された2組のローラ(21)の上に位置決めされる一方で、中央レール(13)は、前記要素(4)の中心に装着されたローラ(21)の組の下に位置決めされる。そのような組立体によって、第1の安定位置と第2の安定位置との間で可動要素(4)を固定バックル部材(2)に摺動可能に接続することを可能にする。

20

【0009】

作動時には、手動式レバーシステム(6、6')が、前記舌部部材(5)と前記取付部材(3)との間の距離を引張方向に沿って変更するために、第1の安定位置と第2の安定位置との間で可動要素(4)を摺動させる。

30

【0010】

手動式レバーシステムは、第1の軸(7)の周りで旋回可能に可動要素(4)に接続された第1のレバー部材(6)を含む。図4および5に示すように、この第1のレバー部材(6)の中央部はさらに、第2の軸(8)の周りで旋回可能に第2のレバー部材(6')に接続される。第2のレバー部材(6')はさらに、第3の軸(9)の周りで旋回可能に固定バックル部材(2)に接続される。

【0011】

手動式レバーシステム(6、6')は、第1のレバー部材(6)が傾くと、作動する。図4および5に示すように、可動要素(4)は前記レバー(6)により引張られて、レール(12、13、14)に沿って第1の安定位置と第2の安定位置との間を摺動する。第1のレバー(6)がさらに90度超傾くと、前記レバー(6)はベルトの舌部(5)に押し込まれ、可動要素(4)を第2の安定位置にもたらず(図6)。

40

【0012】

2つの安定位置において、引張方向に沿って広がる力が、舌部部材(5)に対して手動式レバーシステム(6、6')を押すトルクを生成するように、第1および第3の軸(7、9)が配置される。これにより、手動式レバーシステム(6、6')の望ましくない傾斜を回避できる。

【0013】

50

必要な場合には、ピン（１５）を舌部部材（５）の孔から解除することにより前記舌部部材（５）を可動要素（４）から解放するために、固定バックル部材（２）の一端には、解放要素（１６）が第４の軸（２２）の周りに旋回可能に装着される。この解放要素（１６）は、ピン（１５）の長手方向軸に概して平行な方向に舌部部材（５）を押し込むための、少なくとも１つの押込み要素（１７）を含む。

【００１４】

固定バックル部材（２）は、第１および第２のジョー（２３、２４）をさらに含み、ジョーは、取付部材（３）と、ジョー（２３、２４）に旋回可能に接続されてそれらを開閉するレバー（２５）とを保持する。

【００１５】

上述のバックル機構（１）は、ズボンなどの衣服を身につける場合に好適であるが、添付の特許請求の範囲で規定されるように、本発明の範囲から逸脱することなく、宝飾品を含めた他の用途にも使用できる。

【図面の簡単な説明】

【００１６】

【図１】バックル機構の斜視図である。

【図２】前記機構の底面図である。

【図３】取付部材を舌部部材に接続するバックル機構であって、可動要素がその第１の安定位置にあり、手動式レバーシステムが固定バックル部材内に閉じ込められている状態のバックル機構の側面図である。

【図４】取付部材を舌部部材に接続するバックル機構であって、手動式レバーシステムがある程度傾斜された場合のバックル機構の側面図である。

【図５】取付部材を舌部部材に接続するバックル機構であって、手動式レバーシステムがさらに傾斜され、可動要素が、その第１の安定位置とその第２の安定位置との間のほぼ中程にある場合のバックル機構の側面図である。

【図６】取付部材を舌部部材に接続するバックル機構であって、可動要素が、手動式レバーシステムによってその第２の安定位置へ引張られた場合のバックル機構の側面図である。

【図７】ピンを前記舌部部材の孔から解除することによって舌部部材を可動要素から解放するための解放要素を示すバックル機構の側面図である。

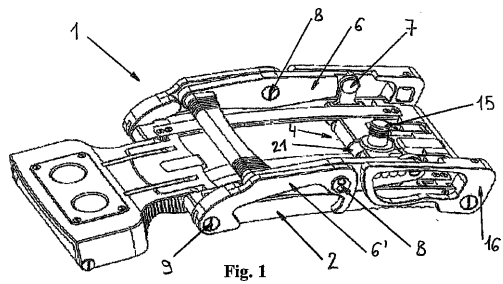
【図８】取付部材を保持するためのジョーを含む、完全に展開されたバックル機構の側面図である。

10

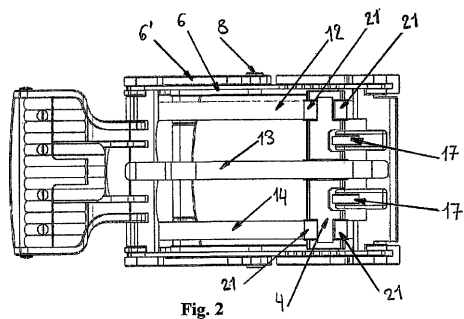
20

30

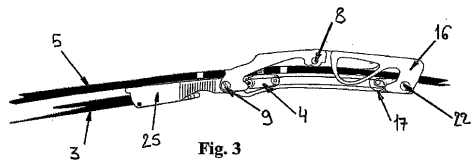
【図 1】



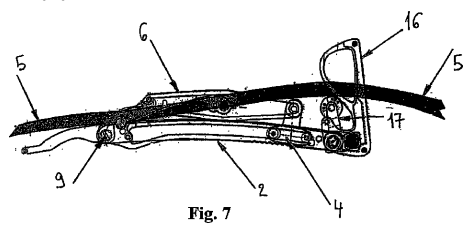
【図 2】



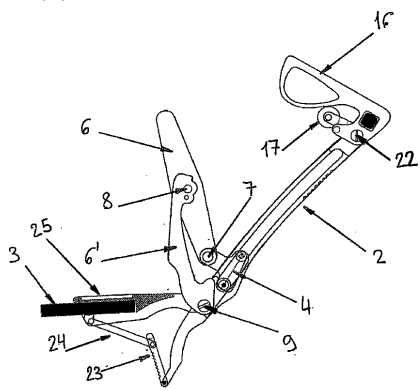
【図 3】



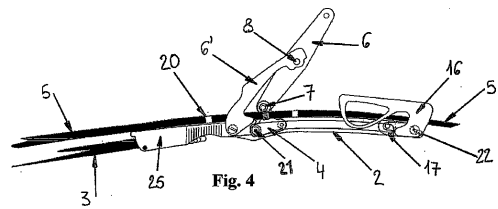
【図 7】



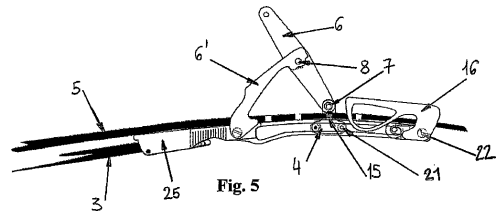
【図 8】



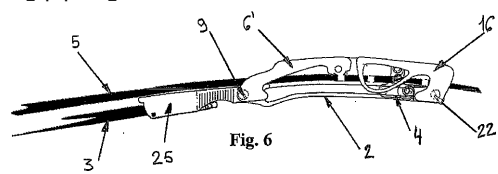
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(56)参考文献 登録実用新案第3054924(JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A44B 11/00-11/24

A41F 9/02

A44C 5/18

A44C 25/00